

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
日本社会事業大学附属子ども学園		令和8年 7月				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	0	・グループによって、子どもの発達に合わせて椅子とテーブルがあったり椅子のみだったり、無しかったり（必要時のみ）等、部屋の使い方は工夫されている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	8		・現制度下では適切な配置数だが、求められる役割も大きくなってきており、制度が現実には追いついていない。 ・職員が安心して休みを取れる体制になると良い。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	3		・入り口は入りにくい（スロープを使いたい場合）。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14	1		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14	0	・気持ちの切り替えが難しいお子さんや落ち着かないお子さん、癇癪や自傷のあるお子さんが安心して過ごせるよう、空き部屋や遊戯室を利用し、安全にクールダウンができるよう配慮している。また、本人の安定だけでなく、グループ全体の活動が円滑に行えるよう環境調整に努めている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12	0	・年2回、業務評価を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	0	・行事後のアンケートを実施し、頂いたご意見を職員間で共有し、改善策を検討した上で次年度の行事運営につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	1	行事ごとの振り返りを通じ、職員から意見や改善案を収集している。内容を回覧して職員間で共有・周知を図り、次年度の業務改善へ反映させる体制をとっている。	・改善される部分と、慣例だから変えられないという部分があるように思う。手拭きがペーパータオルになったり、固形石鹸がポンプ式になったりはとても良かった。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14	0		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	2	・回覧の資料や動画研修を活用している。 ・昨年度からは法人内でweb研修の受講が必須となり、階層別に別れた内容から、自分に適したものを受講できた。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	0	「こどもの最善の利益」を考えることに難しさを感じる場面もあるが、職員間で「この子にとって何が最善か」を話し合い、支援計画を策定し、実践につなげている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	0		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	0	・担任間で話し合い、決めている。	

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	0	・特性を踏まえて、見通しを持てる一定の流れにしながら、様々な経験ができるよう配慮している。 ・固定化させないようにする部分と、特性を考慮してあえて固定化する部分を組み合わせている。 ・子どもの見通しとなる基本的な枠組みは大切にしつつ、活動の固定化を防ぐため、あえてイレギュラーな流れや活動を取り入れるように工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12	0	・支援開始前に打ち合わせを行い、活動内容や役割分担について確認している。当日のお子さんの状況によって柔軟な対応ができるよう話し合い、子どもたちへのより良い支援につなげている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12	0	・担任間で振り返り、改善につなげている。 ・お子さん一人ひとりについて振り返り、今後の対応などを話し合っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	0	・日々の記録は重要なトピックスを逃さないよう意識しつつ、簡潔に残す工夫をしている。その内容をもとに職員間で支援の検証・共有を行い、次の対応改善に活かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12	0	・電話や就学支援シート等で情報共有している。 ・昨年度の年長児についても、必要に応じて保護者から学校に引き継ぎの依頼をもらい、電話で移行に際する情報共有を行った。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	9	0	・事業所等とは必要に応じて連携を図るように努めている。地域全体の質の向上に資する取り組みについては、実習施設として、対応が難しい学生も含めて実習生を受け入れており、現場での指導を通じて人材の育成に貢献していると思う。 ・昨年度は、本園と併行利用をしている子どもの通う難聴児型の児童発達支援センターの研修に参加し、担当職員と情報共有を行うことができた。	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6	3		・職員数の制約もあり、外部研修に参加することはほとんどない。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	11	0		
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	13		・それぞれのお子さんの特性による安全管理やプライバシー保護が最優先となるため、地域の子どもたちとの積極的な交流機会を十分に確保することは難しいと感じている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	0	・連絡帳や個別面談、登降園の際に情報共有を行っている。 ・日々の支援記録を保護者の方に確認していただく中で、内容についての質問を受けることもあり、共通理解を図る機会となっている。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14	0		
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0	・事前にアンケートを配布し、支援計画書に反映させている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14	0	・日頃からご家族の様子を観察し、心身の疲れや悩みが見受けられる際には、担任からも面談の機会を提案することもある。 ・連絡帳や面談で行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	11	1		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14	0	・各行事の様子をHPに載せている。	・発信はされているが、「メール→LINE」、連絡帳や出欠席連絡の電子化など、保護者のニーズに合わせた改良が必要になってくると感じる。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14	0	・マカトンサインを活用し、子どもたちが安心して意思を伝えられる環境づくりを行っている。サインや伝え方の工夫については、ご家族の方とも共有し、園と家庭で同じようにコミュニケーションを図ることで、子どもの意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	9	・未就園のお子さんを対象にげんきっこクラブを開いている。	
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15	0	・お薬プリントを提出してもらい、看護師とも情報共有を行っている。 ・てんかん発作などあるお子さんについては、非常時のチャートを作成していた。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15	0	・年度途中から1名アレルギー対応を必要とするケースがあるが、指導員と看護師、栄養士、調理師で情報共有を図り、医師の指示書に基づく対応を開始した。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	0	・ヒヤリハットについて、朝礼や職員会議等で共有し、再発防止や事故防止の徹底を図っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11	0		